

慢性C型肝炎

①概要

C型肝炎ウイルスは、血液・体液を介して感染するウイルスです。

感染初期に自然にウイルスが排除されるのは約3割で、多くは肝炎が持続し、慢性肝炎、肝硬変と進行します。肝硬変からの肝臓癌の発生は年間5～7%といわれています。

②症状

感染時は自覚症状に乏しく、症状がないまま慢性肝炎、肝硬変へ進展します。

肝硬変に至ると、黄疸、腹部膨満、浮腫、意識障害などが出現することがあります。

③検査方法

血液検査では、肝胆道系酵素、C型肝炎ウイルスマーカーなどを調べます。

また、腹部超音波検査などの画像検査を定期的に行い、肝臓の状態、癌の合併の有無について評価をします。胃食道静脈瘤が疑われる場合は、胃カメラを行います。

慢性C型肝炎

④治療方法

従来、注射薬であるインターフェロンを用いた治療が中心でしたが、副作用が多く、治療を続けられないことがありました。

近年、直接作用型抗ウイルス剤(DAAs: direct acting antivirals)と呼ばれる経口薬が開発され、インターフェロンを用いない治療が可能になりました。副作用はほとんどなく、ウイルス排除率は90%以上です。C型肝炎ウイルスの種類や、常用薬、腎機能などから、その方に適した治療薬を決定します。

様々な薬剤が開発されており、最新の知見に基づき、治療法を検討します。

【現在使用されている治療薬】

- ・ソホスブビル／レジパスビル
- ・オムビスタビル水和物／パリタプレビル水和物／リトナビル
- ・エルバスビル／グラゾプレビル
- ・ダクラタスビル／アスナプレビル／ベクラブビル
- ・ソホスブビル／リバビリル

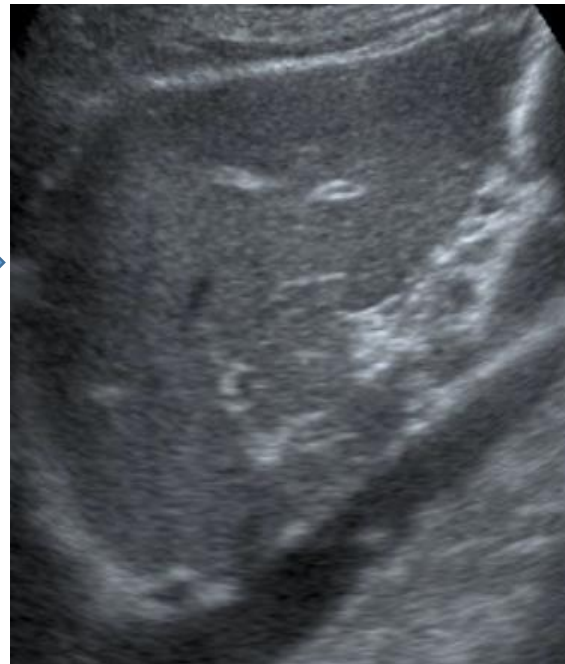
【慢性肝炎と肝硬変】

慢性肝炎とは、肝臓に炎症が起きている状態が6ヶ月以上続いている状態のことです。
慢性肝炎が進行し、硬く縮小してしまう状態を肝硬変といいます。

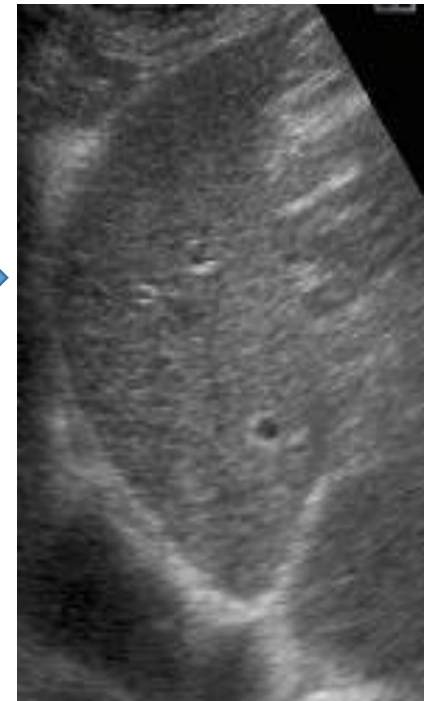
正常



慢性肝炎



肝硬変



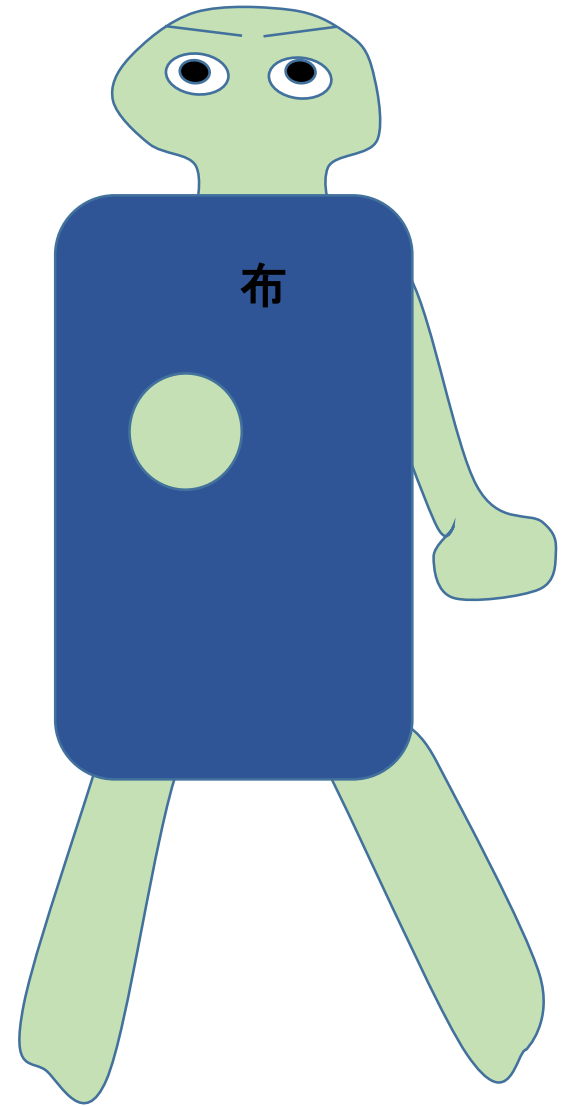
慢性肝炎や肝硬変の状態をみるため、
または肝障害をきたす原因を調べるために、
肝生検を行うことがあります。

- 肝生検

①まず、超音波をあてて、刺す位置を決めます。



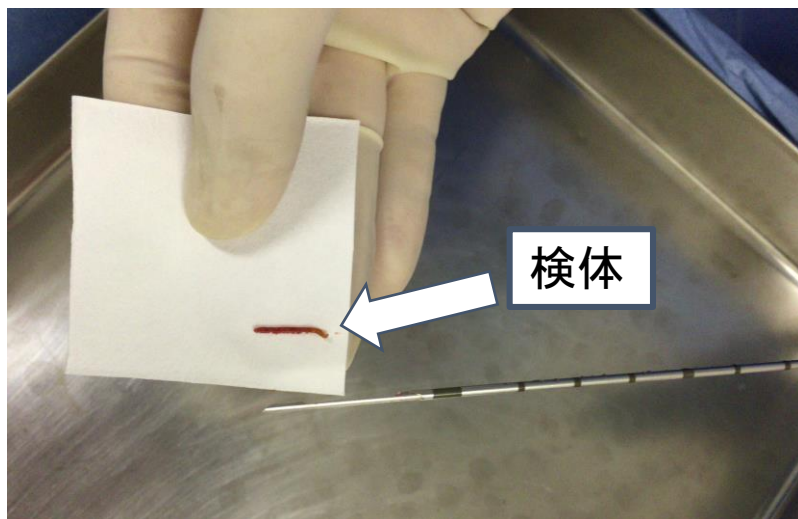
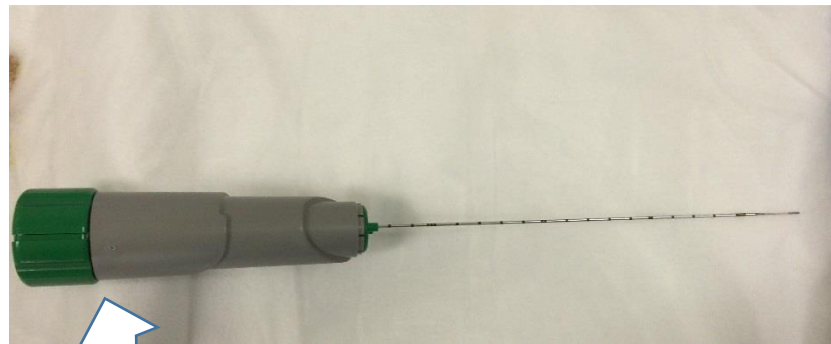
②消毒をして布を広げます



③局所麻酔をします。



④超音波を見ながら針を刺していきます。



⑤針で採取した検体を提出します。